

会 議 議 事 録

1 会議名	第2回 第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会
2 開催日時	平成30年2月5日 (月曜日) 午後1時30分から午後2時45分まで
3 開催場所	中央図書館 講座室1
4 出席者名	<p>(委 員)</p> <p>錦委員長 渡邊副会長 佐藤委員 会田委員 齋藤委員</p> <p>(オブザーバー)</p> <p>金澤教育部長 曾根教育総務課長 竹内学校教育課長 大矢子ども家庭課長 大野保育課長 小林青少年育成課長補佐</p> <p>(事務局)</p> <p>山田中央図書館長 梅沢館長補佐 石井奉仕係長 長瀬主査 井口主査</p>
5 欠席者名	なし
6 議題	<p>議事1 第二次長岡市子ども読書活動推進計画 (案) について</p> <p>議事2 第二次長岡市子ども読書活動推進計画 概要版 (案) について</p>
7 審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・議事1について 第二次長岡市子ども読書活動推進計画 (案) について報告され、意見交換がされた ・議事2について 第二次長岡市子ども読書活動推進計画 概要版 (案) について報告され、意見交換がされた

8 審議の内容	
事務局・中央図書館長補佐	<p>それでは、ここからの議事は、次第に沿って委員長より進めていただきます。</p> <p>【議事（１） 第二次長岡市子ども読書活動推進計画（案）について】</p>
委員長	<p>はい。皆さま第 1 回の時にお会いして、今度また第 2 回の時にお会いできること、大変嬉しく思います。では本題に入ります。説明をお願いします。</p>
事務局	<p>では、事務局から第二次計画案について説明させていただきます。前回第一回委員会の後担当者ワーキングを行い、検討を重ねてまいりました。お配りしてある計画案は前回の委員会から改訂してあります。それで資料 1 ですが、前回委員会でもお話しさせていただきましたが第二次計画では基本方針を次の 3 点としております。1 ページの下の方です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長段階に応じた読書環境の整備を進めます。特に読書習慣の形成に大きな影響を持つ乳幼児期における家庭での読書活動に重点を置きます。 ・子どもの自主的な読書活動を推進するために家庭、地域、学校、図書館等の関係機関の連携を強化します。 ・情報メディアの普及による社会情勢の変化を踏まえ読書に親しむ機会の充実を図ります。 <p>以上の 3 点を中心に取組を進めてまいります。では前回の委員会を経て検討した箇所を中心に年齢別に説明をさせていただきます。事務局の説明の後、説明の補足や二次計画のポイントとなる所を各課長から一言説明をお願いいたします。全体といたしましては各世代の項目の 2 番目に課題をあげておりますが、そこに小見出しを追加し分かりやすくしました。また、各ページに説明やイラストを追加し、雰囲気などが伝わりやすいよう工夫いたしました。では 5 ページです。</p> <p>乳幼児期における読書活動の推進についてです。この中 6 ページの項目 3 に「乳幼児健診などの機会をとらえて」という所がありますが、そこに保護者の上手なメディアとの付き合い方等の意識啓発に努めます、と少し文言を足しました。それからめくっていただいて、8 ページブックスタートの取組について書いてございますが、まちなか絵本</p>

<p>子ども家庭課長</p>	<p>館でもブックスタートの本を受け取れるように体制を整えます。では子ども家庭課長より計画のポイントについてご説明いただきます。</p> <p>はい。子ども家庭課です。よろしくお願いいたします。ページ戻っていただきまして6ページになります。まず課題ですが、くくりとしまして電子メディア依存への懸念ということで、保護者が最近スマホを触る時間が大変増えているということで、この時期に大切な子どもと触れ合う時間が減っているのではないかという課題があげられます。次に、読み聞かせ体験の充足ということですが、ここに記載のとおりですが保護者自身がこれまで本と接してこなかったために読んでもらうことの心地よさを知らない方が増えている、というような課題があげられます。それに対しまして、今後の方向性ですが、記載のとおりでございますが、保護者のメディアとの付き合い方の意識啓発ですとか保護者の読み聞かせの機会を増やすための取組を行っていきます。具体的な取組ですが、ページめくっていただきまして7ページになります。まず1つ目ですが子育ての駅ということで先ほども説明いただきました様々な事業をやっておりますが、読み聞かせですとか外部講師による講座などは引き続き行っていきます。ブックスタートも、今後はまちなか絵本館でも実施していきたいと考えております。右側の8ページに移っていただきまして5行目のブックスタートにつきましては、前回も少し説明させていただきましたけれども、生後5か月から7か月の全赤ちゃんを対象としました、赤ちゃん相談の際に実施しております。会場がさいわいプラザということでだいたい1回で70人くらいが集まります。人数が多いためゆったりと絵本の読み聞かせができる場所がなかなか確保できていないという課題がございました。そこで図書館の司書と協力いたしまして来年度から、月2回程度お父さんも参加しやすい土日を使いまして、ブックスタートをまちなか絵本館でも実施したいと考えております。ちなみに現在配布している絵本なんですけれども、2年ごとに選定作業を行っておりまして来年度からは新たに選定させていただきました4冊を配布することになっております。最後に8ページの一番下になりますが、検診の時にメディアとの付き合い方についてのパンフレットを配布しまして、メディアは控えめに、絵本の読み聞かせがお子さんとの触れ合いにおすすめですよという説明と行っています。絵本の紹介</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>リストも配布しております。そういった様々な機会を通しまして、引き続き意識啓発に取り組んでいきたいと考えております。乳幼児期の説明については以上でございます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。では次、9ページになります。保育園幼稚園期等における読書活動の推進についてです。以前との変更点につきましては11ページから具体的な取組がありますが、12ページの一番上に保育士、幼稚園教諭への啓発というものが追加されております。先生方の絵本への造詣を深めることで読み聞かせの手法や園内文庫の選書などに活かしていただければと思います。では保育課長より計画のポイントについてご説明いただきたいと思います。</p>
保育課長	<p>保育課です。まず10ページの課題ということで保護者への啓発を課題に挙げております。保護者に絵本の楽しさを感じてもらい親子で絵本に親しむ大切さを継続して伝えていく必要があるという風に考えております。そのための今後の方向性として、11ページにありますけれども保護者や保育士が読書活動への理解や関心を深められるようにすることや家庭での一週間に本を読む回数が増えることを目指していきたいと考えています。具体的な取組は記載のとおりとなりますけれども、まずは保護者への啓発ということで12ページのところに書かせてもらっていますけれども、家庭における読み聞かせの回数は家庭によって差が大きいということで、週3日から4日は読み聞かせをしてもらえるよう働きかけをしていきたいと考えております。そのために保護者から絵本の読み聞かせに関心を持ってもらえるよう、絵本だよりの配布、保護者への読み聞かせ、絵本の貸し出しを積極的に行っていきたいと考えております。忙しくなかなか絵本の読み聞かせができない保護者には、寝る前の数分を親子で絵本を楽しむ絵本タイムを提案するなど各園で工夫を行い家庭での読書を習慣化していきたいと思います。それから昨今忙しい保護者には、先ほど話がありましたけれどもテレビやゲームに子守りをさせているということもありますので、豊かな親子のコミュニケーションのためにもノーメディアデーなどを推進して家庭での絵本に親しむ時間を増やしていくことを目指していきたいと思います。それから園内における図書館環境の充実ということで、保育園幼稚園において子どもたちがいつでも好きな本を手にとって読むこ</p>

	<p>とができるような絵本環境を整えていきたいと考えております。例えば絵本コーナーを設置するとか、図書館の利用や米百俵号を活用することなどを通して、絵本を充実させていきたいという風に考えております。保育園・幼稚園については以上となります。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。では次に 13 ページをご覧ください。小中学校期における読書活動の推進についてです。小中学校期については一次の時から特に変えたところはありませんが、学校図書館の蔵書の充実を中心に進めていきたいと思っております。では教育総務課長より計画のポイントについてご説明いただきたいと思います。</p>
教育総務課長	<p>はい。教育総務課でございます。教育総務課の主な担当は図書館の蔵書の整備というところでございます。15 ページの課題の一番上でございますが、前回の会議でも述べさせていただきましたが図書館の蔵書の更新について舵を取っていききたいというような方針です。ここに書いてあるとおりでございますけど、学校図書館図書標準というものがございまして、文科省の方で示している学校図書館であればこれぐらい配置するよという目安がございまして、それに向けてこれまでずっと整備をしてきたわけですが、今後はより新しい情報を子どもたちにということで、17 ページ一番上でございますが古くなった図書の更新を進め新しい情報に触れる環境の整備を図ります。というように増冊というところから更新という方向に舵を取っていききたいと、そして子どもたちに新しい情報の提供をと思っております。教育総務課は以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。次に学校教育課長より説明をお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>はい。学校教育課の方では 13 ページにまとめられていますが、現状のところ 13 ページの下から 4 行目、小学校では 78.9%の子がどちらかという本を読むことが好きとなっていますし、中学校では 75.5%という風に出ています。そこで課題の中のメディアコントロール等を中心に施策を進めながら、今後の方向性のところにあるように 80%と 78%というように読書を好きな子どもたちの数を増やして、いずれは</p>

	<p>委員長のお話にもあったようにずっと傍らに本のある暮らしを目指していきたいと思っています。具体的な取組としましては16ページの読書活動というのが一番大きいところなんですけれども、これをするにあたっては読書週間の本の充実や、18ページをご覧いただきましてメディアコントロールや家読の推進というようなことを、教育委員会からも学校にこんな案がありますよということを紹介しながら、各学校の状況に応じて取組をしていただきたいと思います。その一方で、さらに学校図書館の活用を進めるためには17ページの方でボランティア活動の充実と長期休業中の学校図書館の開放の充実、18ページの方では学校図書館を活用した事業の充実、学校図書館の開館時間の拡充といったところを取り組んでいきたいと思っています。これら全体を通してベースアップを図って、量と質の両面の充実を図っていきたいと考えております。以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。次に青少年育成課課長補佐より児童館などの取組についてご説明をお願いします。</p>
青少年育成課長補佐	<p>はい。青少年育成課です。18ページの一番下にございます児童館における読書環境の充実というところになりますけれども、児童館・児童クラブでは図書コーナーというものを必ず設けておりまして毎日子供たちが図書と身近に触れ合えるような環境を整備しております。また、読み聞かせボランティアが来てくれる場合もありますが、自分たちでもできるように児童厚生員に読み聞かせの研修なども逐次行って環境整備に努めてまいります。以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。最後に19ページをご覧ください。図書館における読書活動の推進についてです。まず、20ページのアンケートを変更いたしました。前は図書館の利用について困ることがあるかという質問に対して困ることが少なくなったというような考え方をしたのですが、これをやめて図書館に行く回数を問うことで暮らしの中の図書館の位置づけをとらえることにしました。このような結果になっております。また、その下の項目の課題ですが、小見出しを付けるとともに2番目の電子メディア依存の表記を変えてあります。次に21ページからの具体的な取組の部分で、22ページの中ほどに挙げております</p>

<p>中央図書館長</p>	<p>が、前回委員長より意見をいただいた赤ちゃん向け絵本セットの貸出、それから 24 ページの方に載せてあります児童館・中学校への図書セット貸出、こちらを今後 5 年間の計画の中で実行できるようにしたいと思っております。また、22 ページの一番上、館内での展覧会などにおける読書活動の普及や、中ほどにございます年齢別の絵本ガイドの設置、23 ページに米百俵号ブックカーニバルの実施などの項目を追加いたしました。では中央図書館長より説明をいたします。</p> <p>中央図書館です。今ほど概略を説明させていただいたとおりですが、図書館としては市民全体の読書活動の普及を第一使命としながら、この子ども読書活動推進のために、子育て世代から中高生まで、特に人生のスタートを切るその世代への読書の働きかけというものを重点的に今後とも取り組んでまいりたいと思っております。それで課題のところ、図書館利用の普及というところが 20 ページにございますが、図書館の利用が 17.6%に留まっておりますという記載があるのですが、これは私どもの方で統計を取っております図書館の貸出カードの登録者数を人口で割った数字でございます。この数字が具体的に伸びるように図書館の利用を市民により一層働きかけていくということも底上げを図る必要があるのかなという風に思っております。また、各世代別に電子メディアへの依存に対する警鐘ということがございますので、これは図書館全体としても取り組んでいかなければならない問題であると思っております。それで読書の習慣と選書の大切さということで、図書館の方では司書を中心に選書会議で良書を選ぶということでやっておりますので、具体的に若いお母さん方がどういう本を読んでいいかわからないということの手助けとなるようなガイドブックなども順次取り組んでいきたいと思っております。それで 21 ページ以降いろいろな取組がございますが、先生からご提案いただいたベビーパックなどの事業も、予算の関係もございますので順次できるところから導入を進めていきたいと思っております。また、先ほど先生とのお話の中でもちょっとお話しさせていただいたんですが、読書活動普及という点につきましても、来年度で図書館が開館 100 周年を迎えるんですが、それにあたって様々な事業を計画している中で、この計画冊子を市の施設以外でも、子どもが集まる小児科ですとか歯医者さんや児童施設などいろんなところに配布し、図書館 100 周年と絡めた、より一層</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>委員長</p>	<p>の読書活動の普及に努めてまいりたいと思っております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>どうもありがとうございました。各部署から様々な意見や報告等ありましたので、色々お感じになったこととか質問とか意見などございましたら、どんどんおっしゃっていただきたいと思います。どなたかご意見ある方はいらっしゃいますか。</p> <p>ではまず、7ページなんですけど、大変全体的にたくさんの取組を構想していただいて、また工夫した取組など入れていただいていることに感謝申し上げます。そして学校に対しましても様々なご支援いただけるということで大変嬉しく思っております。いくつかお話をお聞きしたい点がありますのでお願いしたいと思いますが、具体的な取組に「充実」という文言とそれから「継続」という文言、「新規」という文言がありますが、「継続」、「新規」という文言については予想が付きませんが、「充実」という文言が入っているものについて、数を増やしていくという意味のものと、それから内容面と申しますかそういった面の充実というものがあるんだろうなあとと思います。それで7ページの子育ての駅の「充実」については、まちなか絵本館でも実施するという意味で「充実」という言葉が使われているんだろうなあと先ほど理解しました。それからブックスタートの実施というところ、8ページですが継続となっております、先ほどのお話から察すると、お父さんからも参加してもらいやすいように土日にも実施するというようなお話だったわけで、そうするとこれはたんなる「継続」というよりも「充実」という文言にしてもいいのかなと思います。まずこの乳幼児期についてこの辺いかがでしょうか。こういった私の受け止め方でいいのでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>では、子ども家庭課からお願いします。</p>
<p>子ども家庭課長</p>	<p>はい。子ども家庭課です。ご指摘ありがとうございました。7ページの子育ての駅の充実につきましては先生におっしゃって頂いたとおりの意味で充実という文言を使わせていただきました。それでブックスタートにつきましては、ブックスタート自体は引き続き実施していくということで、文言については再度検討させていただいてもよろしい</p>

	<p>でしょうか。ブックスタートは継続するという意味でこの文言を使ったのだと思いますが、そのあたりまた検討させていただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>お父さん向けに土日も、とありましたので、そういう点では「充実」と言ってもいいのかなと思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>お父さん方も今はずいぶん盛んに読み聞かせをなさっているようなのですが、でもまだまだお父さんによる読み聞かせが普及と言いますか、充実していないということも現状ではないかと私は思っているんですね。読み聞かせの習慣ってというのは、私はこの読書活動推進計画というものの中で乳幼児期が一番大切だと思っているんですが、その時に読み聞かせというのは耳で聞くことから始まるわけですよ。それで物語の楽しさとか聞く喜びとかそういうものが、本を読むことに大きくつながると思うんです。字が読めない子どもが本を読んで想像するってというのはかなりの負担なんです。本を読んで想像する。これは類推という言葉を使うんですが、類推するというのは点と点をつなぐことなんです。それを広げるっていうこと。それを本を読みながらやるってというのはなかなか難しいんですよ。それを耳から聞くことによって解決するので、私は乳幼児期の読書体験には何ととっても読み聞かせがいいと思います。それがおのずと文字が読める高学年になっても読み聞かせをしてもらえるとというのは、子どもたちにとってもすごい喜びですし、本に近づく一歩ではないかと思っているんですね。この時期に十分の読書の楽しさを味わったっていう子は、やっぱり本をいつも自分の傍らに置いて、本を読みたくなるものなので、そういう風にしていきたい。なので、本をずっと傍らに置いて生活については、乳幼児期が一番重要だと思います。そして、その時に読書の楽しみをつかんだ子というのは、字が読めるようになれば自然と本を読むようになります。私はそういう風に思っています。なので、毎日とにかく1冊でも2冊でもいいからお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんが夜寝る前でもいいですし、読んであげると読書が習慣化するといいますか楽しみが身につくような気がします。それから1冊絵本を読むのにだいたい5分もかからないですよ。どんなに長くても10分もいかないんですよ。それを1冊か2冊、毎日読んでやるだけでも</p>

	<p>ずいぶん違うんじゃないかなと私は思ってるんです。ですからこの時期を大切に、毎日1冊か2冊読んであげるのが効果的だと思います。それで、この乳幼児期、毎日お父さんお母さんが読んであげると、子どもは楽しみにしますね。ですから1冊か2冊でいいので毎日読んであげてほしいです。すみません、私の話ばかりで。そのほかに何か意見がありましたら、お願いします。</p>
委員	<p>今、先生のお話を聞いてうちの園の子どもを思い出したんですが、みんなが通る階段の下に絵本の部屋を設置してあるんですが、今までは0歳から6歳までの本をひとまとめにしまってあったんですね。それをこのたび、ちいさい子どもの保護者の方に通りがかりに目にしてもらいたいと思ひまして、本を対象年齢で分けて、0、1、2歳用の本をまとめて置ける棚を作ったんです。お家の方の目をサッと引いて、子どもたちに読んでほしいと思って。そしたらお迎えの時にお家の方が手にとってくださるようになりました。園としては早く帰ってほしいとも思うんですが、お家に帰ればもちろん時間に追われてしまうのでしょうから、帰宅する前の園での5分の時間が、いい親子の時間になっているのを最近見かけられて。子どもも気に入った絵本を毎日同じのを読んでいく子もいれば、目に付いたのをぱっと取る子もいるんですけど、それでちょっとした時間ですけども、お子さんと向かい合っている保護者さんを見ると、与えてやる環境も大事だなと、時間と場所の提供とか、園にできることをしてあげるのがすごく大事だなと気づかされております。またそれがきっかけで、図書館でも本を手取るかもしれないし、子どもが気に入っていた本だったなとまた手取るきっかけになってくれればと願っています。</p>
委員長	<p>そうなんですか。基本的には子どもはだいたい6か月位から本が好きなんですよ。読んでもらったがっているんですよ。これを見落とすとよくないんですけど、読んで読んでと持ってくるんですよ。やっぱりそれに応えてあげない手は無いですね。</p>
委員	<p>必ず、もう一回もう一回って何回でも読んでもらいたがりますよね。</p>
委員長	<p>おしまいって言うのがっかりして、なんかちょっとぶすっとした顔を</p>

委員	<p>しますよね。やっぱりまだ読んでほしいんですね。だから応えてやらなければと思います。すいません私の意見ばかり言って。どうぞ何かあればおっしゃってください。</p> <p>冊子を拝見し、今説明をお聞きすると、さまざまな糸口からアプローチされていますし、具体的で、これを基本にして取り組んでいけば目標とする水準がもしかしたら達成できるかもなど思いながら見させていただきました。私は、第1回会議の際はまだ参加していなかったんですけど、先日から乳幼児の読み聞かせを寺泊でやるようになりました。月一度ですね。どんな人や赤ちゃんが来るんだろうと思っていましたが、女の子ばかりで男の子が余りいない。そもそも男の子の出生があな地域は少なかったみたいでしたが、お母さん方が交流するのも喜んでできますし、赤ちゃんも交流できるんですね。言葉は無いんですけど、月1回で思い出したりするんでしょうね。ですから本選びを私も考えなくてはいけないんですけど、図書館に行って本を選ぶのが難しくて。「毎回あのおばちゃんと同じ本読んでるな」とは思われないようにしなければいけませんし、あんまり意図的でもいけないし、でも字を読めない赤ちゃんが対象なので、私も勉強させてもらってるなあと思っています。生涯読書は人生を豊かに作っていくものだと思っているんですけど、あんまり意図的にこれがいいから読んだ方がいいよとか言うんじゃないかと、やってる大人たちが楽しみながら読んでいるとか本を手にとっているという姿が結構いいみたいです。ボランティアを始めて、読み聞かせが終わった後も私たちのまわりによってきてさっき読んだ本を触ってみたり、ペットボトルの遊具で遊んだりするという日が月に1日くらいできて、嬉しいなあとあって皆さんにご報告しているんですけども、市内で比べますと、地域だとなかなか参加するものも少ないですし、図書の実と云われてもどうかと思ったりもしますので、機会があれば中央図書館の方から地域の方も見て回っていただければなあと思っております。</p>
委員長	<p>自然な形でいいですね。なんか読み聞かせだと読んでやってるという恩着せがましくなりますけどね。子どもって意外とこういう大人の下心って言うのは見抜くんですよね。この本読め読めとか、これが学校の成績に繋がるんだとかで読ませられているんじゃないかとかって感</p>

<p>委員</p>	<p>じると本嫌いになってしまいますけど、とても自然でいい感じがしますね。</p> <p>私も寺泊に住んでおりますけど、私は2、3カ月に1回子育ての駅で読み聞かせをしているんです。もう何年かになるんですが2、3年で保育園にいつてしまうので、サイクルで次から次へと新しい子がやってくるんですが、決まった子ばかりが毎回来るんです。もっとほかにもいるんだろうけど来る子は毎回決まった顔が来ます。お母さんだったり、おばあちゃんだったり連れてきているんですが、来ていない子たちはどうしているんだろうなあと思うことがあります。また、「読んで読んで」とくる子は読んでほしいというのもあるんだろうけど、大人との触れ合いを求めてくるのだろうなと私は思うんですよ。スマホなどの機械ではない触れ合いを求めているんだろうなと。その手段の一つとしてあるのが絵本じゃないかなと。子供が一番初めに手に取るおもちゃのガラガラみたいなものだと思います。合併前の寺泊は、ちっちゃい割には2か所図書館があるんですが、どちらも午前中お休みだったんですよ。午前中が子どもが一番活動できていい時間なのにと思っていたら、長岡と合併して午前中も開館するようになってよかったです。あと、私が住んでいたところはどちらかというと分水に近いので、私はよく子どもと分水や吉田の図書館に出かけたりしていたんですけど、町民ではないので、そこでは本を借りられないんですよ。そこで読むことはできたんですが、借りられなかったから残念だったというのがあります。あと、長岡市になってからネットで借りられるようになったのが便利になったんですけど、ネットで借りられるんだと思った時、私は逆にちょっと残念というか、ネットだと本棚からどれかを選ぶんじゃなくて1つを選ぶというようになる。で、それを取り寄せてもらうという便利さはあるんですが、たくさんある中から思いがけず手に取るという経験が少なくなるかなと、長岡市がネットに対応してから一番初めに便利だけど良いような、ちょっと偏っちゃうのかなと思ったのを覚えています。でも今はそれに慣れちゃって、雑誌や新聞で本の紹介があって、これ面白そうって思うとすぐにその本をネットで検索して借りることに慣れてしまったんですけども、小さい子どもは小さいほど、いっぱい本があるところから自分で選ぶ方が、一番初めの赤ちゃんの時はそれは大人が選ぶ要素もありますが、少し</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>大きくなった後は色々な本の中から自分で選ぶという楽しさもあるんじゃないかなと思います。寺泊は図書館が2つあるんですけど、中央図書館には及ばなくて、もうちょっと近くに大きな図書館があってくれたらなって。私は柏崎市が実家なんですけど、子どもが小さい時は実家に行くとはんと近くにソフィアセンターって柏崎の図書館があったんで、そこに連れて行っては、そこで遊ばせて本を読んで帰ってくるというのを実家ではよくやっていました。長岡では、というか寺泊に戻ってくると、近くに大きい図書館がなかったりとか午前中やってなかったりとかで不便を感じていたときがありました。子どもたちも今は大学生になっていますが、年子で2人育てたんですけど、それで2人ともほんとに同じような環境で図書館に行ったり、読み聞かせしたりで育ててきたんですけど、性格なのか1人は本好きです。けど、もう1人はそんなでもないですね。もうちょっと大きくなって成人になると、あまり本好きじゃない方も本を求めるようになる時期も来るのかもしれませんが、性格によっての違いなのかなと、育ててみて思ってます。色々まとまりのないお話をさせてもらいました。失礼しました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ネットでの予約というのはどういうやり方ですか。</p>
<p>中央図書館長</p>	<p>随分多くの方から利用していただいています。図書館の蔵書のデータがありますので、新刊などに関わらず、スマホなどから検索して、調べた本を1人20冊までそのまま予約することができます。予約した資料が貸出できる状態になれば、またスマホ等に連絡が行くようになっております。</p>
<p>委員</p>	<p>最寄りの図書館で受取ができ、返却もどの図書館でもできるのでとても便利だなと思います。</p>
<p>中央図書館長</p>	<p>ただ、予約などは読みたい本が決まっている場合になります。その場合にはすごく便利なサービスかと思います。非常に利用も多くあります。</p>
<p>委員長</p>	<p>私が子育てしたのも何十年も前になりますが、公立の図書館がものす</p>

	<p>ごく充実してきましたね。特に児童書関係の本が非常に充実してきていますね。最近を選書した本が置かれているので、そこはものすごく信用できますね。昔はなんでも置いていたのですが、昨今は司書の方たちがものすごく充実させてくださっているのです。どの本を手にとってもいいと思います。寺泊の方は、児童書の蔵書はどうか。</p>
委員	<p>子どもの本は多くなって図書館の方もおっしゃっています。</p>
委員長	<p>内容の方も充実していますか。</p>
中央図書館長	<p>蔵書については、中央図書館の方で一括して選んでおりますので、内容は全部充実した物を各地域館にも置いています。</p>
委員長	<p>昔のことを言うのもなんですが、本当にひどかった時代もありまして、それに比べると今は本当に充実しておりますね。図書館に行って選べば当たり外れは無い感じがしますが、それは何年くらい前からですか。</p>
中央図書館長	<p>選書会議はずっと前からやっております、何でもかんでも本を買っているわけではありませんでした。すべて司書たちが、買うかどうかを判断していました。</p>
委員長	<p>そうなんですか。長岡はさすがですね。どのような感じでしょうか</p>
中央図書館長	<p>例えば、蔵書数で言いますと平成 28 年度は絵本に関しては、所蔵が中央館 2 万 3 0 0 0 冊、寺泊約 4 0 0 0 冊です。他の地域館についても西地域館が少し大きい図書館なので 1 万冊、その他が約 5 0 0 0 冊づつと言ったところ。貸出冊数も児童書では、年間で中央館 21 万 2 0 0 0 冊、寺泊約 6 8 0 0 冊になっております。選書に関しては図書館に入れるべきよい物を選んでおりますので、ただのベストセラーを入れるようなことはしていません。</p>
委員長	<p>本当に蔵書が充実しているのだと思います。では、何かほかにご意見がありましたらどうぞおっしゃってください。</p>

委員	12 ページの一番上の、保育士・幼稚園教諭への啓発というものですが、これは「継続」となっておりますが、先ほどの言葉のとおり私は新規のことかと受け止めたのですが、継続ということなんでしょうか。
事務局	今までやっていなかったわけではなくて、この度この計画の一部として追加しようかと思ったのですが、ご意見ももともとだと思います。ですので、新規とするかどうか改めて担当者と協議させていただきたく思います。
委員	継続という文言だと「～をしています。」というような文末表現になっていますが、この項目は「行います。検討します」というような項目で、ちょっと「継続」という意味合いには読みとれないかなという気がしました。
事務局	ありがとうございます。検討させていただきます。
委員	それから、保護者への啓発という所で園だより、絵本だよりとありますが、これはどこかの園が出していらっしゃるのでしょうか。
保育課長	保育課ですけれども、園だよりについては全ての保育園が出しておりますし、絵本だよりについてもいくつか出していない園もありますが大多数が出しております。
委員	これについては「継続」ということで、何か数的なもの、例えばどの園でも出していくようにするとか、そういうものはここでプランされているものではないということですか。
保育課長	絵本だよりというようなお便りではなくて、園だよりの一部として情報を出している形のところもありますので、合わせて保護者には伝えていきたいと考えています。形式にはこだわらずに啓発活動を続けたいと思います。
委員	先ほど学校教育課長さんから、家読あたりのところで教育委員会の方

	<p>からもアイデアを提案していきたいというお話があり、大変心強いなあと思ったんですけども、例えば読み聞かせの大切さ、それぞれの園でもしっかり出しているとは思いますが、この読書推進計画を進めるにあたって、改めて課として、各園に是非こういった点で書いてほしいとかこんな書き方をして欲しいとかそういったような情報提供は考えていらっしゃらないでしょうか。</p>
<p>保育課長</p>	<p>課の方では今はちょっと考えていないんですけども、ただ園の方で各園いろいろな工夫をさせていただいておりますので、そこを活かしながら課の方でも助言などして啓発していきたいと考えております。今、頂いた意見など参考にしながら考えていきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>各校、各園でそれぞれ工夫した取組をされているのは事実だと思いますが、お互いの情報交換、共有ですとか情報提供ですとかそういったことをやっていただけるのは、やっぱり教育委員会の方かなという気がしていますので、市全体の意識を高めていくという計画ですので、ぜひその点、ご検討いただければなという気がいたしました。</p>
<p>委員長</p>	<p>どうも貴重なご意見ありがとうございました。ほかに何かございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>20 ページのところ課題とあって、電子メディア依存の啓発というのが課題として挙げられています。特に今後電子メディア依存への啓発ということに関わることで、読書離れなど、基本方針の3つ目の黒点のあたりが意識されているのでしょうか。具体的な取組としてこの電子メディア依存への啓発がどのように行われるのかが見えにくいという気がいたしましたがいかがでしょうか。</p>
<p>中央図書館長</p>	<p>はい。図書館の方での課題と言うことで、例えば母親世代に働きかけるということで、赤ちゃん相談の際にチラシを配ることなど今まで行ってきたことへのプラスアルファということで、例えばそんなことだと思っておりますが、この計画の中に掲げるという点ではもう少し、ご指摘の通り具体的な記述など入れていった方が分かりやすいのかなと思っておりますので、検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。</p>

<p>委員長</p>	<p>ます。</p> <p>よろしいでしょうか。では、今頂きましたご意見は細かいところ含めて事務局で確認し、結果を委員長に諮り一任いただくということで、よろしいでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。それでは、次の議事に移ります。事務局から説明をお願いします。</p> <p>【議事（２） 第二次長岡市子ども読書活動推進計画 概要版（案）について】</p>
<p>事務局</p>	<p>では、議事の２に移ります。資料２をごらんください。概要版です。第１回目の委員会の際は概要版というものをお渡ししておりませんでしたので、今回、概要版を資料に加えさせていただきました。表紙がありまして、それをめくっていただくと中面に取組が紹介されております。左側に二次計画で掲げた基本方針、先ほど読み上げました３つの重点方針と計画の期間が載せてあります。そして、真ん中は図書館を中心に各課で協力して事業を進めていくというイメージで作成しております。それぞれの丸の中は計画案に書いてございます課題や今後の方向性をもとにまとめてあります。そして最後、まためくっていただきまして裏表紙です。ここは計画案の年齢に合わせた取組をコンパクトにまとめて事例の写真などを追加いたしました。概要版につきましてご意見などお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>ではまたここでご意見やご質問等あればお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>図の中に、連携協力というのが３か所ございます。今のご説明で、この連携協力というのは教育委員会の各課の連携協力なのだという意味合いで受け止めたのですが、私は当初頂いた時は家庭と保育園・幼稚園の連携、家庭と学校地域の連携、そういった部分の大切さがここで表現されているのかなと思ったんですが、例えば学校で広がる読書といったような物を考えた時に、先ほど計画の中に家読のすすめとい</p>

	<p>うものがありまして、もちろん学校と家庭が連携しなければ子どもに本が傍らにある暮らしには結び付いていかないと思うんですね。そうすると家庭というのが全体にかかってこない幼稚園にしても図書館にしてもうまく連携が取れていかないんじゃないか、そんな印象を持ちながら拝見していたんです。もしその連携協力というのが教育委員会の各課の連携という意味合いであればまた読み方を変えなきゃいけないなあと思っているのですが、ここで目指すものが一体何なのかというあたりがちょっとはつきりしていないような気がしておりました。家庭というのがもっと全体にかかってくるのがベターなんじゃないかと私は思っておりました。</p>
委員長	<p>どうでしょうか。教育部長、この連携協力というのはどういう形で、ビジョンと言いますか、なにかございますか。</p>
教育部長	<p>今、委員がおっしゃった通り学校だけでできるものではなく、保育園だけでできるものでもなく、そこには連携が必要ですので、この連携協力の中にはそれぞれ学校と家庭、保育園と家庭、それから保育園と学校の連携という意味が含まれると思います。ただですね、この推進計画全体がどこかだけがやるものではなくて、教育委員会にあるあらゆる課が穴を埋めながらいろんな所をつないでいって切れ目のない、子どもの成長に合わせた読書活動の推進を進めるということで、時系列と言いますか、子どもの成長に合わせた連携という意味があると思います。ですのでここはどちらかの意味合いしかないということではなく、どちらの意味合いもあるという風にとらえていただきたいと思います。それがこの計画の取組の中で表れているかどうかと言うのは、また問題になるかとは思いますが、例えばさっき言った家読のところは学校段階のところに記載されているということは、要するに家庭と学校が連携する必要があるという意味合いであると、そんな風に考えていただければと思います。</p>
委員	<p>おっしゃることはその通りだと思います。ただその、今ほどの家読というようなものをとらえていく時に、家庭で育む読書の中身に家読が見えないんですね。1番上の項目のところ、そうすると学校だけにまかされる家読になってしまうんじゃないか、決して市として目指し</p>

	<p>ているものはそうではないと私は思うのですけれども、では子ども家庭課だけが家庭での読書に関わるものなのかということ、それもまた決してそうではないんじゃないか、そうすると家読を進めていくにあたって、一つの例ですけれども、どのように学校と家庭の連携、課と課の連携が図られていくのかというあたりがもう少し見えるようになっていってほしいなという風に思います。</p>
事務局	<p>事務局ですが、ご意見を踏まえてもう少し全体で協力していくんだ、という感じが見えるよう検討していきたいと思います。課の名前をここに書くかどうかということも関係課の中で意見が分かれたところでした。ここで書いてある枠の中だけでというわけではなくて、このオレンジの円は全体をまとめこんでいるという意味合いで作ったつもりでしたので、もうちょっとわかりやすいように工夫を加えたいかと思います。検討させてください。</p>
委員	<p>むしろ課の名前は入れるなら最終ページにあった方がすっきりするような気がします。発達段階に合わせたということで。</p>
委員長	<p>どうでしょうか。これは検討しながらということで。</p>
事務局	<p>はい。事務局と各関係課の方で調整をいたしまして委員長の方へ諮らせていただくということでお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>学校と家庭で連携しながら読書を薦めるというのはなかなか難しいような気はしますが、何かしら取り組みたいと思う所ですね。</p>
事務局	<p>小学校の低学年で、音読の宿題があります。音読も親御さんへの読み聞かせというわけじゃないですけど、家読の一つにあたるんじゃないかなと思っておりますし、長期の休みになれば学校図書館から本を借りて帰ったりもするわけで同じ本をみんなで読むという機会は、探せばあると思いますので、そういったところも掘り下げていければいいのかなと今のお話を聞いていて思ったところです。</p>
委員長	<p>学校の先生、担任の先生が音読をして、本を読んでやるっていうのが</p>

委員	<p>ものすごい効果があるわけですね。それでまた同じ本を家で音読するというのも私は一つの例としてお勧めしたいところです。そのほかにも何かご質問やご意見等あればお願いします。</p> <p>お願いが一つありますが、私は市の学校図書館協議会の会長を拝命しておりますけれども、自分の反省としまして、昨年も今年もやってきたわけですが、市の子ども読書推進計画というものへの意識がほとんどなかったなということをお大変反省しております。是非この二次計画概要版というものを各学校に配っていただいて、私も啓発に努めたいという風に思っておりますし、市の学校図書館協議会の職員にはこれを踏まえた取組を働きかけていきたいなあという風に思っておりますので、大変お詫びしつつ配布をお願いしたいです。</p>
委員長	<p>それから蛇足なんですけども、大人が、本を薦める人が本当に本が好きだっていうことを子どもに示さないとなかなか伝わらないんですよね。やっぱり大人に本を読むということは楽しいことなんだというのを伝えたいですね。大人が本に対して関心がないってことは、子どもはやっぱり関心がないですね。本当に楽しみを知っている大人が本を読んでやったりとか伝えたいなって思います。すいません勝手な意見です。それであとは色々検討して頂くということでもよろしいでしょうか。すいません時間が過ぎてしまいました。</p> <p>では、これから種が育つように、本を読む子がいっぱいになるよう祈って終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
事務局・中央図書館長補佐	<p>錦先生、議事を円滑に進めていただきましてありがとうございます。今ほどお話がありましたようにこの概要版と計画の冊子が完成しましたら、委員の皆様にお送りいたしますので、ご覧いただければと思います。ではこの1年間、第二次計画の策定ということで皆様にはご協力いただきまして大変ありがとうございました。以上をもちまして、第2回第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会を閉会します。</p> <p>本日は雪の中、大変ありがとうございました。</p>